

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）について

2025年3月

秋田県立由利工業高等学校

令和6年度、由利工業高校は文部科学省の施策であるDXハイスクール（総予算100億円、全国で1010校、うち秋田県内は16校）に指定されました。各校におよそ1000万円ずつが配分され、本校ではその補助金のほとんどをデジタル実習機材購入と通信環境の整備費用に充てました。

令和7年度も、前年からの継続校は500万～700万円の支援を受けられる見込みであり、採択校としての本格的な取り組みが始まります。それに伴うカリキュラムの変更および基本方針等について簡単に説明します。

1 総合的な探究の時間 ※ の実施形態について

※ 3年間で3～6単位を標準とする必修科目

※ 中学校の、総合的な学習の時間に相当

学 年	令和6年度以前の入学生（新2・3年）	令和7年度入学生
1年次	総合的な探究の時間として、1単位（週に1時間）を履修する 自身の生き方（進路）に関する内容が主体	開設せず
2年次	開設せず	工業の専門科目「 <u>課題研究</u> 」を1単位履修し、 <u>総合的な探究の時間の代替</u> とする
3年次	工業の専門科目「 <u>課題研究</u> 」を2単位履修し、総合的な探究の時間の代替とする	従来（左記）と同じ …計3単位すべて課題研究で代替する

2 2年次での課題研究について（令和8年度実施、素案）

教科の枠を越えて探究的な学びをするために、4学級（科）が一斉に行う。指導教員は工業の小学科（機械、電気、環境システム、建築）から各2～3名、さらに普通教科の若干名を加え計12名程度で生徒のグループ活動を支援する。3学期には、3年生の課題研究発表会と一体化した行事を開催する。2～3月は所属学科における次年度の課題研究（探究学習）の準備に入る。

3 対外的活動の具体例（抜粋）および人材育成について

- ・地域に開放するための実習室を整備し、小中学生向けのデジタルものづくりセミナーを開く。
- ・学校祭や地域イベント等でデジタル機器の活用法を紹介し、一般市民がその利便性を体感する機会を設けると同時に、本校生徒の活動意欲およびコミュニケーション能力の向上を目指す。
- ・ICTに関連する各種コンテストや競技会への積極的参加を促す。
- ・就職先の企業で導入されている先端技術に対し、抵抗なく適応できるスキルを身につけさせる。
- ・理工系大学への進学者数の目標値を、学年全体の12%とする。（令和7年3月卒業生は11.3%）